

3) ホンモロコの標識放流調査

太田滋規、遠藤誠、根本守仁、藤岡康弘

【目的】近年、ホンモロコの漁獲は著しく減少している。このため、効果的な増殖手法を検討するため、ふ化仔魚、稚魚に標識を施し、放流・再捕調査を行った。

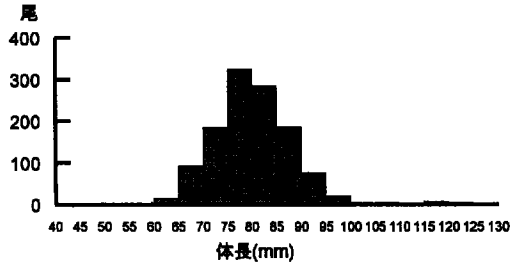
【方法】平成10年4月20日から5月27日にかけて大津市比叡辻地先にALCで標識したふ化仔魚2,682千尾、6月24日には39日令のALC標識稚魚(平均体長17.46mm)を比叡辻の沖に32千尾放流した。また、栽培センターにより6月18日に、山の下湾沖に118千尾(平均体長16.22mm)、山田増殖場内に70千尾(平均体長19.73mm)のALC標識稚魚が放流された。

再捕調査は6月には放流場所の岸沿いを小型地曳網、7・8月には南湖一円を小型沖曳網により行った。また、9～11月に南湖の刺網、12月15日に南湖のエリおよび1～3月に北湖での沖曳網漁獲魚標本により再捕調査を行った。

【結果】小型地曳網調査では、比叡辻に放流直後の6月25日に、比叡辻でその場所の標識魚が4尾再捕されたのみで、他にはホンモロコ稚魚は再捕されなかった。南湖一円の小型沖曳網調査では、ホンモロコの稚魚は全く採捕されなかった。南湖の刺網調査では、1,263尾を調査したところ、比叡辻沖放流の標識魚が3尾再捕された。エリの調査では29尾を調査したところ、栽培センター放流の標識魚が1尾、比叡辻沖放流の標識魚が2尾再捕された。北湖の沖曳網調査では、1,200尾を調査したところ、つづらお崎沖で比叡辻沖放流の標識魚が1尾再捕された。

本年の調査では、ふ化仔魚放流の標識魚は再捕されなかったが、稚魚放流の標識魚は合計7尾(放流直後の小型地曳網調査の再捕魚は除く)が再捕され、再捕率0.00318%と低いながらも稚魚放流の有効性が確認された。また、標識魚1尾のみの結果ではあるが、稚魚の南湖から北湖への移動も確認された。

再捕日	漁具	体長(mm)	標識
2/22	沖曳網	72.06	比叡辻



北湖沖曳網調査(1~3月)の体長ヒストグラム

放流日	尾数	平均体長±SD(mm)	標識
6/18	118,000	16.22±2.45	黒點センター

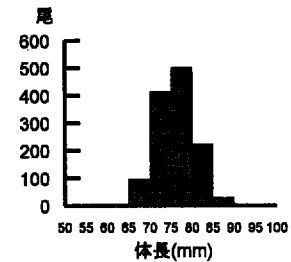
放流日	尾数	平均体長±SD(mm)	標識
6/24	32,000	17.46±3.69	比叡辻

放流日	尾数	平均体長±SD(mm)	標識
6/18	70,000	19.73±2.31	黒點センター

再捕日	漁具	体長(mm)	標識
12/15	エリ	75.85	比叡辻
12/15	エリ	68.86	比叡辻
12/15	エリ	77.62	黒點センター

再捕日	漁具	体長(mm)	標識
10/1	刺網	75.00	比叡辻
11/16	刺網	88.64	比叡辻

再捕日	漁具	体長(mm)	標識
10/8	刺網	72.66	比叡辻



南湖刺網調査(9~11月)の体長ヒストグラム

● 放流場所
★ 再捕場所

図1 ホンモロコ稚魚標識放流場所および再捕場所